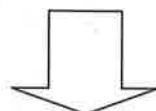


# 教育課程部会

## I. 研究の概要

### 1. 研究課題

『新しい時代に必要となる資質・能力を育成する  
「社会に開かれた教育課程」はどうあるべきか』



### 2. 研究内容

#### 【研究内容 1】

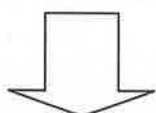
学校教育の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

- ア. 構造的・弾力的な教育課程の編成
- イ. 調査・データに基づいたPDCAサイクルによる改善
- ウ. 外部資源の活用、外部機関との連携

#### 【研究内容 2】

自ら課題を発見し解決する資質や能力を育成する「総合的な学習の時間」のあり方

- ア. 探究的な見方・考え方、主体的・対話的な学び
- イ. 発達段階に応じた縦のつながりと各教科等との横のつながり（特色ある教育の推進）



### 3. 研究方法

#### (1) 交流計画

前半、新学習指導要領実施に向けての理論研修会を全体で行う。後半、グループごとに各自持ち寄った実践レポートの交流を行い、研究課題に対する協議・意見交流を行う。

#### (2) 分科会構成

小学校の部会員で7グループ、中学校のグループで5グループを編成し、レポート交流を行う。グループ編成は、登録している研究内容に限らず、多くの実践を交流し、見識を広げていく。

## II. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 第1回部会役員研修会  
研究課題・内容・方法の確認、部会当日について、日程確認
- 5月18日 第2回部会役員研修会  
当日の協議方法（分科会構成・役割分担）の検討、当日までの仕事内容の確認
- 7月24日 部会便り第1号発行
- 7月28日 第3回部会役員研修会  
部会当日の協議内容・方法の確認
- 8月21日 部会便り第2号発行
- 9月 5日 石教研課題部会研究協議会  
第4回部会役員研修会  
部会便り第3号発行
- 10月16日 第5回部会役員研修会  
研究の成果と課題の洗い出し、「石狩の教育」原稿読み合わせ
- 2月 1日 第6回部会役員研修会

#### (2) 部会役員研修会での研究成果

- ① 昨年度のアンケートで好評だった新しい学習指導要領に関する理論研修会を今年度も行うこととした。
- ② 各校の特色ある教育活動の交流という視点で、実践レポートとは別に「総合的な学習の時間」の指導計画を集約し、交流資料として追加した。
- ③ 理論研修会を行うため、今年度も南北2ヶ所ではなく1ヶ所開催とした。
- ④ 3回の部会報とHPで、部会員への研究内容や日程などの周知を行うことができた。
- ⑤ 講演会と分科会の両方を実施する形を来年度も継続していく。分科会をより有意義なものにするために、進行方法などを見直し、予定の50分間を確実に保障することを確認した。

### 2. 課題部会研究協議会での交流

#### (1) 課題部会研究協議会での交流内容

##### ① 実践・レポート交流の様子

各学校が研究内容に沿ったレポートを持ち寄り、交流を行った。その後、討議の柱を軸に研究協議を行った。各グループのレポートで取り上げられた項目の一部を紹介する。

Aグループ（小） 司会：森國 聡（千歳泉沢小） 記録：砂原 史朗（江別大麻泉小）  
 ・日課表から見た教育課程 ・教科横断的な内容配列 ・総合の小中一貫教育  
 ・小中一貫教育の取組 ・学力向上 ・指導方法の工夫改善 ・教科部会の取組

Bグループ（小） 司会：久恒 重尚（江別大麻泉小） 記録：伊賀 信之（石狩双葉小）  
 ・教科横断的な内容配列 ・総合の小中一貫教育 ・学力向上の取組 ・習熟度別少人数指導  
 ・R-PDCAサイクルによる改善 ・教科部会の取組 ・コミュニティスクール

Cグループ（小） 司会・記録：川野 博（江別いずみ野小）  
 ・教科部会の取組 ・学校力向上の取組 ・日常授業のUD化 ・各種テストの活用  
 ・総合の小中一貫教育 ・教育活動の見直し ・R-PDCAサイクルによる改善  
 ・教科部会の取組

Dグループ（小） 司会：植田 孝一（北広島双葉小） 記録：鹿島 幸司（千歳末広小）  
 ・日常授業のUD化 ・総合の小中一貫教育 ・アイヌ文化学習 ・教科部会の取組  
 ・家庭学習の取組状況 ・地域単元の授業づくり

Eグループ（中） 司会：野澤 琢磨（石狩花川北中） 記録：浦嶋 史子（北広島西の里中）  
 ・言語活動の充実 ・小中の地域連携 ・外部資源の活用 ・外部機関との連携  
 ・カリキュラム・マネジメント

Fグループ（中） 司会：吉田 純永（石狩樽川中） 記録：新保 雄三（石狩花川中）  
 ・言語活動の充実 ・指導方法改善の取組 ・授業評価の取組 ・学習環境の整備  
 ・カリキュラム・マネジメント ・外部資源の活用 ・外部機関との連携  
 ・道徳教科化への対応 ・小中連携の取組 ・教育課程の編成

Gグループ（中） 司会：内田 大介（千歳北斗中） 記録：赤井 輝人（北広島東部中）  
 ・言語活動の充実 ・カリキュラム・マネジメント ・小中の地域連携  
 ・外部資源の活用 ・外部機関との連携

Hグループ（小） 司会：前田 和寛（石狩花川南小） 記録：原田 香菜（恵庭柏小）  
 ・「総合」全体計画の編成 ・「ふるさと教育」への取組 ・学力向上の取組  
 ・教科部会の取組

Iグループ（中） 司会：堀内 直樹（北広島西の里中） 記録：鬼塚 建次（恵庭恵北中）  
 ・指導方法改善の取組 ・授業評価の取組 ・学習環境の整備 ・小中の地域連携  
 ・外部資源の活用 ・外部機関との連携 ・道徳教科化への対応 ・小中一貫教育

Jグループ（小） 司会：林 克哉（千歳信濃小） 記録：村井 康俊（北広島緑ヶ丘小）  
 ・小中一貫教育の取組 ・地域人材の活用 ・学習規律の確立 ・学力向上の取組  
 ・学校改善プラン ・小中連携の取組 ・道徳や外国語活動への取組

Kグループ（中） 司会・記録：吉村やよい（北広島西の里中）  
 ・言語活動の充実 ・外部資源の活用 ・外部機関との連携 ・小中連携の取組  
 ・総合的な学習の反省から

Lグループ（小） 司会：横山 隆也（石狩双葉小） 記録：吹浦 美香（北広島東部小）  
 ・学校改善プラン ・教育課程編成の工夫 ・学習規律の確立 ・学力向上の取組  
 ・家庭学習の取組状況 ・教科横断的な内容配列

## ② 成果と課題

○グループを小・中で分けたことにより、新学習指導要領、道徳、外国語など校種ごとのタイムリーな話題について交流することができた。

△レポートについて協議する時間が十分に取れなかったこともあり、「カリキュラム・マネジメント」と「総合的な学習の時間」の話題を両方扱うことが難しかった。

△前半の理論研修会、後半のレポート交流・協議ともに有意義な取組であるが、限られた時間の中で有効な交流・協議ができるようにさらなる運営上の工夫が必要である。

(2) 課題部会研究協議会での協議内容

レポート発表内容（各学校の取組内容）やグループ協議で挙げた話題について一部を紹介する。

討議の柱1

学校教育の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

**【構造的・弾力的な教育課程の編成】**

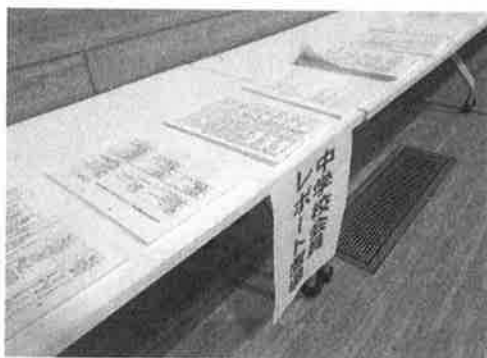
**\*外国語活動・道徳を含む**

- ・地域や児童の実態をよく見たオーダーメイドの教育課程を目指している。
- ・カリキュラム・マネジメントを進める上で学校として取り組んでいる「凡事徹底」というテーマがある。教師も児童も「当たり前」のことに注力している。
- ・「誰が担任しても、誰が受け持っても」学校という組織で動く、個々の指導力に頼り過ぎない教育課程の編成を目指している。
- ・外国語の導入に伴い、時数の確保等についての各市の状況について話し合った。学校独自というよりは、市内・管内で考えて統一した動きになっていくのではないかと。
- ・道徳の評価を通知表に記載する準備を進めている学校もあり、評価方法、記述方法などについて交流することができた。
- ・この移行期こそ、校内や学校間でのカリキュラムに関しての相互理解を図るための交流が大切になってくる。

**【調査・データに基づいたPDCAサイクルによる改善】**

**\*学力向上策・指導方法の工夫改善を含む**

- ・学習規律の定着を目指し、年3回振り返りを行っている。
- ・少人数学習を進めるにあたって、「教師の使う言葉（用語）の統一」を目指し、指導する教師が変わっても、進級しても、子ども自身が系統を意識でき、安心して授業に臨めるようにしている。
- ・職員数が多いことを活用し、教科部会を設置している。全校での指導の統一を図ることができることに加え、学年間の系統性を重視することが



ことができる。その他にも、教材・消耗品の購入を計画的に実施できるなど、大変充実したものになっている。

- ・同じドリルを全学年で使っている。指導法が統一でき、朝自習、宿題など何にでも使えることがメリットであり、年度末に注文できるので、新学期のスタートと同時に使用できる。

- ・不易の部分を明らかにし、まずはそこをしっかりと指導することを確認している。また、+α、何をするのかという視点を共有できることを大切にしている。
- ・児童、生徒による授業評価を行い、分析・交流することで授業改善につなげている。

## 討議の柱 2

自ら課題を発見し  
解決する資質や能  
力を育成する「総  
合的な学習の時  
間」の在り方

**【外部資源の活用、外部機関との連携】**

**\*地域連携・小中連携・CSほかを含む**

- ・小中一貫教育への取組を紹介。ゴールが明確になっていないなど、少なからず不安感もある。取組の一つとして、同じ中学校区における小学校同士の連携や中学校教諭の乗り入れ授業も行っている。
- ・小中連携の回数を増やしている学校が目立った。小中で学習規律を揃えたり、分掌・教科に分かれての交流をしたりする中で、連携を図っている。また、小学校3校+中学校1校の小中連携カレンダーを作成したという学校もあった。
- ・小中連携の一環として、児童会と生徒会の会議を予定している。
- ・コミュニティスクールとしての地域連携について、各市町村・各学校で違いが見られ、興味深い交流となった。
- ・コミュニティスクールにより地域と関わるが増え、地域からのクレームが減った。
- ・外部人材の活用は、「地域と共働」するという意識が大切。また、「人材活用」の「活用」という言葉は、地域の人にとってはイメージが良くない。

**【探究的な見方・考え方、主体的・対話的な学び】**

- ・「恵庭の名人探し」⇒キャリア教育的な内容と地域の良さをうまく繋げていきたい。地域の人と関わることで、地域の良さを知るきっかけになっている。
- ・学習指導要領の改訂をチャンスと捉えて、この機会に「総合的な学習の時間」を含めた見直しができればよい。

**【発達に応じた縦のつながりと各教科等との横のつながり(特色ある教育の推進)】**

- ・中学3年生で大学訪問を実施している学校も見られ、上級学校を見学する時期・内容も交流することができた。
- ・職員数が多く、共通理解を図ることが難しいこともあり、全体計画を立てていても、うまく活用できない。
- ・2年生で職場体験(3日間)、3年生で上級学校見学に変更する予定がある。
- ・職業体験の日数や宿泊学習の経費などについて、他市町村の現状を知ることができ、貴重な情報交換の場になった。



### Ⅲ. 理論研修会

#### 1. 理論研修会の内容

北海道立教育研究所企画・研修部主査 二階美幸先生をお招きして、「新学習指導要領実施に向けて～カリキュラム・マネジメントの具体例」と題して理論研修会を行った。

- ・改訂の背景や方向性
- ・資質・能力の三つの柱
- ・改訂のポイント
- ・観点別学習状況の評価
- ・移行措置の内容

等の詳しい解説をいただいたあと、グループ

に分かれ、各学校で「全面実施に向けての取組で工夫していること」「今後、学校として取り組む最優先事項」等について交流を行った。



#### 2. 理論研修会の成果

「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現していくかを考えるとき、「新しい学び」が始まると慌てたり、浮き足立ったりする必要はない。また、これまで蓄積してきた経験を若い先生に引き継ぐことも大切にしていく。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、図や具体例で示しながら説明していただき、理解することができた。



カリキュラム・マネジメントは、教務だけの問題ではなく、学校全体で取り組み、学習の質を高めていく必要がある。新学習指導要領を受けて、カリキュラム・マネジメントの視点で見直すべき教育課程のポイントを知ることができた。

移行期間における留意点、移行措置の内容についても改めて確認することができた。

研修会終盤のグループ交流では、特に「外国語の時数確保について」「道徳の教科化への取組状況」が多く話題に挙がり、情報交流の良い機会となった。

### Ⅳ. 部会研究の成果と課題

#### 1. 成果

「社会に開かれた教育課程」に迫るため、前半は理論研修会を通して、新学習指導要領に向けたカリキュラム・マネジメントについての理解を深めることができた。また、後半のレポート交流・協議では、新学習指導要領、CS、小中連携など、各市町村、各学校の現在進行中の実践をお互いを知ることができ、教育課程部会として貴重な情報交換の場を提供することができたと考えている。

#### 2. 課題

新学習指導要領・道徳・外国語など教育現場が大きな変化を目の前にしていることもあるためか「カリキュラム・マネジメント」に関する内容が多くなり、「総合的な学習の時間」の話題が少なくなった。しかし、「総合的な学習の時間」の話題を取り上げる貴重な場として、次年度以降も研究を継続し、より充実した学習のあり方を探る必要があると考えている。

(文責 内藤 裕一)